

<加藤 美和 氏 プロフィール>

上智大学で比較政治学や国際関係論を学び、1998年に修士修了後、日本国政府在ニューヨーク国連代表部で政務・安保理案件を担当。その後、ハーグにある化学兵器禁止機構、在オーストリア日本大使館を経て、2003年から国連勤務。国連事務局の越境犯罪・違法薬物対策部局（United Nations Office on Drugs and Crime/UNODC）本部（ウィーン）やアフガニスタンなどで、紛争後の平和構築の一環として、法の支配に基づいた制度・組織作りや犯罪・テロ対策支援を展開。実務経験を通じた知見を学術的にも捉えるため、仕事の傍らウィーン大学で国際政治学の研究に携わり、2009年博士号取得。また、UNODC勤務12年を超え中間管理職も経験した後、自身も働く女性・母として「ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（DEI）」の促進が国連としての緊急課題だとの認識から、UNWOMENに移り、エジプトの国事務所長、アジア太平洋地域部長・事務所長を歴任。日本を含むアジア42カ国において、政策・現場レベル両方から女性のエンパワーメントに従事した経験から、社会・組織のシステムをアップデートする必要性を痛感し、国連内外の組織改革にも積極的に関与。直近5年間は、家族のベースであるウィーンにあるUNODCにて事業局長として、同機関のフィールド支援全般を統括。平和と安全、発展、人権、そしてサステナビリティやエクイティ促進等あらゆる分野で、国際支援業界を超えた協働が必要であるとの認識から、学生や研究者との対話・ネットワークのため、2021年秋以降、上智大学で「DEIと社会変革」「グローバル・リーダーシップ」に関する講義を担当。